

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>最後に書いてあるという意識が働くのか、⑤につけたものが多い。正答率30%と低い。</p> <p>2 要旨という言葉の意味が完全に理解されているかが疑問である。アとエにつけたものは、3人に2人ぐらいの割合になっている。(正答率33%)</p>	<p>指導する必要がある。どうすれば、どんな手だてで主題をとらえるのかという「学習のしかた」を理解させたい。また、中心となる語句をおさえたり、文末の表現から筆者の考えをとらえていく指導も重視したい。</p>
<p>三、修飾・被修飾の関係がわかる</p> <p>1 ちょうど→さしかかった(正答率60%) 2 新しい→学校が(正答率70%)</p> <p>この観点の問題の中では、どちらも比較的よくできているが、「ぐうぜん」(1の場合)「新品」(2の場合)など、別の言葉を入れたり、分かち書きになっているのに、「ぼくたちの学校がいよいよできあがった。」などと、よけいな言葉の記入がみられた。</p>	<p>。 文の構造や文中の語句の意味をとらえようとするとき、修飾の関係を明らかにすることは、指導上の大きな観点となる。</p> <p>指示語(こ・そ・あ・ど)の指示する事物をはっきりつかませることを、日常の指導で心がけたい。</p>
<p>四、文章の要点を読みとる</p> <p>正答率29%と、段落・主題・要旨と同様にあまりできていない。冒頭に問題文、あるいは中心文、結論をかかげる事例は教科書教材でも数多くあるが、それに気づかずほとんど②として誤答となっている。</p>	<p>。 文章や話の要点を理解し、自分の立場からまとめることは、3年の「理解」の重点事項である。4年の段落、5年の主題や要旨の学習をへて6年では総合的なまとめの段階に応じた指導を徹底する必要がある。</p>
<p>五、場面の情景や人物の気持ちを読みとる</p> <p>1 「おくろうとすると何もなし」という表現で、なぜ送るものがないのか、作者の気持ちを深く読みとっていないために、誤答は、ア・ウとばらつきがみられた。正答率は70%と高い。</p> <p>2 「あの美しい銀の波」を「初秋の山の風」と大ざっぱにとらえたもの、「穂立て」の意味がよくわからなくて、ばくぜんと穂立てにとらわれたもの、文章に表現されていない「風</p>	<p>。 作者が住む田舎の質素な生活のようすを想像したり、都会の人々に対する作者の思いやりの気持ちになってみたりして、文章を味わわせる指導が望まれる。</p> <p>。 これは、当然「茅の穂の」の「の」を受けていることをみすごした結果であるといえる。また「あの美しい銀の波」の「あの」という代名詞の指すものは何かを考えさせる指導を</p>